

拝啓 暑い夏がやって参りました。皆様お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、むくげの紫の花が暑い日差しの下で、元気よく咲いています。

今月は、小西先生の『ローマ人への手紙講解説教』の第3回目です。小西先生が、内村鑑三先生の信仰を受け継いで、伝えられるとともに、恵心僧都を始め日本仏教の信仰の受け方を学ばれ、恵心流キリスト教と言われたことは、真に合理的な信仰の受け方という気が致します。

7月21日(土)、22日(日)と、長野県穂高町で開かれた名古屋聖書集会の鳥居勇夫・祝子さん御夫妻主宰の「安曇野夏の集い」に参加して参りました。私は、今年で3回目の参加でした。

21日夜は、まず荒井明先生の「ミルトン：楽園喪失」の話からでした。続いて、日野原重明先生、小塩節先生、荒井明先生の3人の鼎談による「病になうということ」は、それぞれ病気の経験者による鼎談でしたから、聴いて実益の多い鼎談でした。例えば、脳梗塞の兆候があったときは、すぐ救急車を呼びなさい、2時間以内に治療が開始されれば、血栓を溶かせ、軽くすませることができる、などという実証的な知識をいろいろ教えて頂きました。

22日朝は、6:30からの早天祈祷会に参加しました。鳥居さんの別荘の赤松林の中に突き出たデッキの上で、14,5人が参加して行われましたが、「読むべきものは聖書、学ぶべきものは天然、なすべきことは労働」という内村鑑三先生の言葉を自然の中で実感したひとときでした。その後朝食を御一緒させて頂きましたが、日野原先生の隣に座らせていただき、先生にいろいろなことをお尋ねしたり、教えて頂いた貴重なひとときでした。

講演会は、穂高町の碌山美術館前の研成ホールで行われました。地元の柴野道夫さんの「井口基源治に学ぶ」と日野原先生の「たましいの故郷」と感話会でした。日野原先生の「魂の故郷」は、すべて感銘深い講演でしたが、今でも10日に一度小学校を訪ねて、いのちの授業をしておられるということ、その授業の始まりは、子供たちにサッカーボールを先生に向けて蹴らせて、それを受けとめるという実演から始めるそうで、お元気さは驚くばかりです。小学生らに対する結論は、「時間がいのち」ということで、なるほどと思いました。

これから真夏の時期に向かいますが、どうぞ皆様もお身体ご自愛ください。今年は、オリンピックのテレビを見ていれば、涼しい時が過ごせるかもしれませんね。

敬具

平成24年7月25日

山口周三

エンカウンターのお読者各位